



令和4年4月号

「最適な方法を求めて」

先月のお便りで「人が受け取る情報の8割は視覚情報」と書きましたが、これには個人差があります。人は、それぞれ感覚の受け取り方が違います。同じ大きさの音でも、人によって「うるさい」と感じたり「静か」と感じたりと様々です。これは、聴力の違いではなく、脳内での情報処理の速度と量の違いになります。これらの違いは人間の五感（視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚）+前庭感覚（平衡感覚や傾き・速度）・固有受容覚（重力・圧力・骨や筋力）の7つの感覚の受け取り方によって変わっていきます。この感覚の偏りやバランスは100人居れば100通りあり、全く同じという人は存在しませんし、全てにおいて平均的に感じる人もおらず、何かしらの形で「感じやすい」感覚と「感じにくい」感覚があります。また、過敏に「感じすぎてしまう」事もあり、日常生活に影響が出てしまう事もあります。

私たちも、支援の中で子どもの感覚的な特徴は、一つの指標として重視しています。様々な感覚の受け取りの差があるので、まずは目の前にいる子どもの感じやすい事・感じにくい事を観察する中で見極めて行きます。感覚的な特徴が分かると、この子への関わり方や環境設定のヒントになります。例えば、視覚からの情報が入りやすい子には、図や写真、文章などの視覚情報を活用して伝えたり、聴覚に過敏さがある子には音が軽減出来る様に別室を用意したり、音を少なく出来る環境（イヤホンや耳栓など）を作っていきます。

この感覚的な偏りや特徴は、様々な経験を積み、成長をする中で軽減をされて行く事もありますが、全く無くなる訳ではありません。その時に、苦手な事を克服する事や我慢をする事だけを求めてしまっても、最終的には本人が苦しくなってしまう結果になってしまいます。その子の受け取りやすい方法や得意な方法で、苦手な事を補って行ける様にする事。更には、環境を整えて行く方法を知る事が大切になります。

その様な最適な環境や方法を見つけ出していく為に、事業所を有効活用して頂ければと思います。

児童通所課 嵯峨憲司



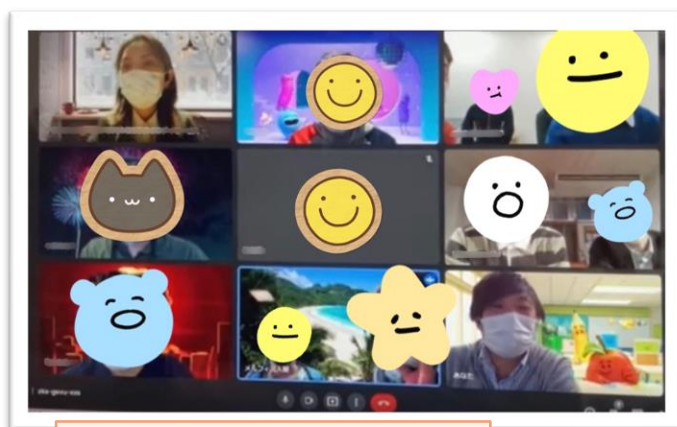
3月活動報告

☀MJバザー



3月19日(土)にMJバザーに参加しました！自分で作ったアクセサリが売れていくことで、自信に繋がりました！

繋がろう企画第2弾！！



3月29日(火)に全国と繋がろう第2弾を行いました。2回目ということもあり子どもたち同士で話はずんでいました！

